



中澤俊勝社長

# ICT活用で質の高いケア目指す 「ライフリズムナビ+Dr.」導入

フィルケア（横浜市、中澤俊勝社長）は、今年11月にオーブンする「グランフォレストときわ台」を筆頭に、今後開設する介護付有料老人ホーム全てにエコナビスター（東京都千代田区、樋木修司社長）の「ラ

イフリズムナビ+Dr.」を導入すると発表した。同製品は、エコナビスターと大阪市立大学医学部疲労医学講座が共同開発した見守りシステム。中澤社長は「細

やかな情報把握ができる点と、職員の負担を軽減できる点に魅かれた。二重の面から介護の質を高める製品だ」と話す。

最大の特長は、疲労医学に基づいた独自のデータ解析機能。動体検知などの活動量や温湿度に加え、睡眠深度や中途覚醒の回数などの睡眠データを取得できるため、事故や病気が発生する前の「予兆」を掴み、適切な対応に繋げることがで

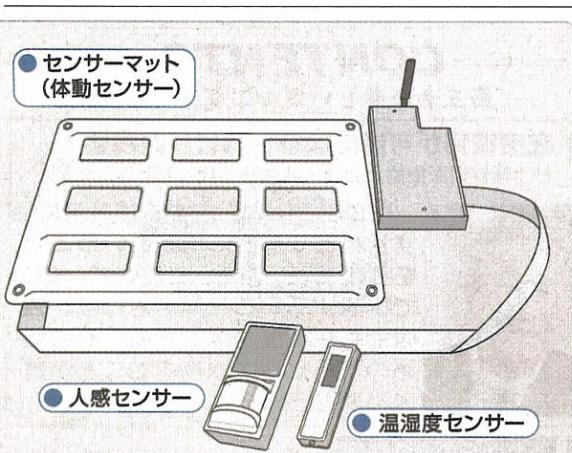
きる。プライバシー面に配慮しており、カメラは使用せず、非接触センサーのみを使用している。

取得データはグラフなどソコンやスマートフォンで簡単にチェックできるため、利便性も非常に高い。中澤社長は、「介護現場で起きたさまざまな事態に対応するには、職員間の連携が重要。同製品を活用すれば、多職種がその時々の状況を、正確かつ迅速に共有できる」と語る。

また職員の負担を軽減さ

せるため、人の手による介護の質の向上にも繋がると強調する。「人材不足の中、職員はちょっとしたことで現状。しかし情報把握と連携が効率的にできれば、職員は人でしかできないケアに注力できるだろう」（中澤社長）。介護に集中しやすい環境づくりの面からも、魅力を感じた導入のきっかけを振り返る。

フィルケアは2019年までに現在の10施設から、20施設までの拡大を目指している。新規開設施設はもちろん、既存の施設にも同製品を導入していく考えだ。「ICT活用で、より正確で手厚い介護体制を確立させ、フィルケアのアピールポイントとしていくたい」と中澤社長は話した。



複数のセンサーで様々な情報を取得する